

平成9年4月、市都市景観条例として施行され、直ちに、許可制を適用する保全エリア（＝山なみ景観保全地区）を決めるため都市景観審議会に諮問。新たに規制を受ける山林所有者の財産権と景観保全という公共性をどのように調整するか、非常に重いテーマが1年半にわたり審議されました。その過程で山林所有者や市民の意見を問うためにシンポジウムなども開かれたりしました。「まちなみ会議」の皆さんには、審議会の公募委員として厳しい議論に加わっていただいたり、またシンポジウムで共感を呼ぶ率直な

意見を述べていただいたり、……。山なみ景観保全の取り組みの第一歩は、皆さんのニュートラルな市民感覚によるところが大きかったと思います。

その後、この取り組みは、山麓部のみどりそのものの保全の方向へと進み、今やその中心的役割を果たしているNPO法人「山麓保全委員会」が誕生しましたが、この組織の立ち上げ、支援、自立化等の際にも「まちなみ会議」が先進モデルになりました。

### ■桜ヶ丘の洋館通り

市都市景観条例には、地域の景観シンボルとなっている建築物を末永く保全していただく「都市景観形成建築物」の指定制度があります。平成10年、5件の建築物を初めて指定しました。このうちの4件は、桜ヶ丘に佇む大正期の洋館です。

指定にあたっては所有者の理解と同意が必要になりますが、所有者にとっては、古い建物を維持していく苦労、生活上の不便、先々の心配など様々な迷いが伴い、そう簡単に指定を受け入れられるものではありません。この指定に至るプロセスにおいても「まちなみ会議」の存在は大きかったと思います。

確か、第1回タウンウォッチングで訪れたのが桜ヶ丘でした。この地で大正期に開催された住宅改造博覧会に出品された住宅群を目にし、その素晴らしさを「パネル展」や「まちなみ通信」を通して市民に広く発信。その後行われた桜ヶ丘自治会の創立50周年式典でも、出張ミニパネル展を開くとともに地域の古老から洋館にまつわる昔話を伺うなど、これらの市民的交流の中から地域の歴史の掘り起こしや博覧会出品住宅の保全



ムードが醸成されていきました。これらの動きもあって、「都市景観形成建築物」の指定へと繋がりを、さらに面的な広がりを守る「都市景観形成地区」の指定へと進みました。ちなみに「洋館通り」という愛称は、「まちなみ会議」の皆さんによるネーミングが広がったものです。

### ■これからも二人三脚で

紙幅の関係で以上二点のご紹介となりましたが、「まちなみ会議」の皆さんには、市指定保護樹木、まちなかのみどり、屋外広告物、景観計画づくり、……。そのほか多くの場面で大きなパワーをいただけてきました。これからも良きパートナーとして、息の長いご活躍を願ってやみません。

”地域の子供たちと共に街の美化を”

”ちょっとボランティアの会”

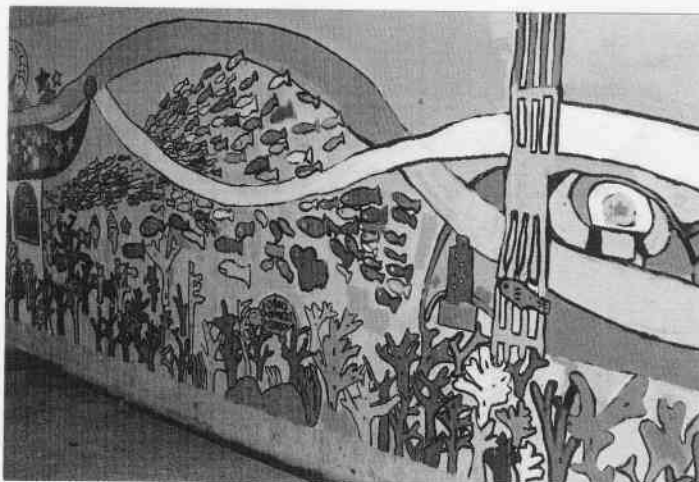
会員 18 名、平成 13 年 4 月発足、 代表者 森 敬一

小野原東 3, 4, 5, 6 丁目は昭和 50 年代に箕面市による大規模な区画整理事業が行われ、整然とした道路に面して住宅街が生まれた。小野原 3, 4 丁目の西半分は合同宿舍などの集合住宅、他はゆとりのある戸建て住宅、阪大キャンパスが近いことから、学生向けワンルームマンションが多い。街の中心を通る小野原・豊中線、小野原・山田上線の交差点付近に、スーパー、銀行、コンビニなどの生活支援施設も設置され、公園も 7ヶ所設けられた。

住民が増えるに従って、人々は公園に花を植えて、水やり、雑草取り、清掃など活動を始めた。

ちょっとボランティアの会は、小野原南 1, 2, 3号公園、プラタナス通りの清掃、ベンチなどの整備、花壇作りなどを永年熱心に続けておられる。また、小野原・豊中線を潜る地下道には、豊川南小の児童が描いた、魚や貝など海の中を散歩するファンタジックな壁画が在り、通学する児童は勿論、住民も楽しく通り抜けている。しかし、心ない若者がスプレーペイントで落書きして、見苦しくなっていた。

そこで、ちょっとボランティアの会では、地域の子供たちと一緒に、壁画の修復に取り組み、見事に美しい壁画が再生した。



豊川南小でも授業の一部として 2, 3年生が公園の花壇作り、草抜き、水やりなどを行い、地域全体の活動として、定着して来た。

最近では、子供たちだけが育てる花壇も作られ、知らず知らずのうちに、子供たちの心に街を愛する気持ちが定着しつつあり、また子供たちと地域の人々との交流の輪が広がっている。(豊川南小制作 ”豊川南の街” にも記載)

一方、西部地区の区画整備も終わり、小野原・豊中線も全通し、街が一層活性化し公園などの美化が人々を和ませている。



兵庫県西宮市生まれの私は5歳の時に豊中市の本町に移り、近くの大池小学校に通いました。よく遊んだ本町の家前の狭い道は豊中からの「旧箕面滝道」の一つでした。

豊中生まれの手塚治虫ほどではありませんが、小学生時代の私は大の虫好きでした。夏休みには一人で朝の一番電車に乗り昆虫採集用の虫籠と網を持って箕面の山まで通いました。目指す秘密の目的地は勝尾寺へ行く途中のクヌギ林でした。カブトムシクワガタ、コガネムシ、スズメバチ、蝶など様々な昆虫がクヌギの甘い樹液に群がっていました。

途中箕面の滝の付近では猿の群れが小さな私を真っ赤な顔をして脅してきました。また蛇の群れが滝道を塞いでいて、網の柄で蛇を一匹ずつ追い払い震えながら通ったこともありました。私にとっては大変懐かしいそんな秘密のクヌギ林が今はもう消えてしまいました。自然が少しずつ少しずつ減っていく箕面でも、自然が少ない豊中に住んでいる私にはまだまだ魅力的でマイナスイオンを吸いに時々滝まで上ります。



箕面焼の大釜鈴を抱いて

定年後も会社の先輩の紹介で「みのお市民まちなみ会議」に入会し、ますます箕面の魅力に引き寄せられています。それは箕面には自然が多いということだけではなく、昔の人たちの生活の証しである「歴史」が街並みの中に沢山残っているからです。

私にとってはその「歴史」が貴重な「みのおのお宝」だと思っています。タウンウォッチングで「みのおのお宝」を発見したとの喜びの感動はこたえられません。

「みのお市民まちなみ会議」のパネル展では過去に色々な「箕面のお宝」を紹介させて頂きました。特に私が好きな箕面の街並みは「力石」や「地蔵さん」と出会える牧落からの旧滝道、「萱野三平の旧宅」や、「常夜灯」が残る旧西国街道、それと日本で一番古い「町石」（1247年）が立つ旧勝尾寺参道です。



2006年のパネル展で好評だった  
みのお「お宝さがし」と「絵すごろく」

私は毎週火曜日と木曜日に箕面川が裏に流れる環境の箕面・桜井テニスクラブでテニス仲間たちとワイワイとプレーを楽しんでいます。

また趣味として全国の土鈴5,000個を収集していますが、箕面には土鈴が少ないのは残念です。でも箕面焼の「紅葉鈴」、「猿の鈴」や勝尾寺焼の「勝ち達磨鈴」、「鳴き猿鈴」、「町石鈴」などがあります。以前に箕面焼の窯元にお願いし箕面川の「河鹿鈴」、「山椒魚の鈴」を新たに作って頂きました。これからも虫、役行者、ほら貝など箕面に因んだオリジナルの土鈴が増えると好いなと思っています。

なお今も豊中に住んでいますが、以上のように日ごろの活動の場の殆どは箕面です。今後も私の活動の場が大好きな箕面であり続けられることを願っています。 以上



# タウンウォッチング

私達の住む美しい『みのお』を  
再発見しましょう

みのお市民まちなみ会議では、年間 8回タウンウォッチングを行い、みなさんと一緒に街を見て歩いております。参加自由ですので、歩きながら、新しい発見をしましょう。箕面にも歴史があり、街も刻々と変化が起こっていて、驚かされます。

昨年、タウンウォッチングのマップ集を発行いたしました。その後に実施した街歩きのダイジェストを特集します。参加された方は、歩いたコース、見聞きしたことなどを思い出して下さい。また、参加されなかった方々には、探訪、散策の供として参考にして下さい。

まちなみウォッチング 第47回

千里川、芋川沿岸

2010. 4. 17

千里川、芋川に沿って田園風景を楽しむ

ウォッチングコース

歩行距離 約 4.5Km

市立病院前 BS → 稲 5丁目住宅街 → 神津橋 → 墓前橋 → 萱野三平墓地 → 芝 1号橋 → 萱野交差点 → 芝南橋 → 芋川沿い → 旧西国街道 → 今宮西交差点 → 石丸田園地帯 → 市民農園脇 → 打越池

美術短大跡に建つ住宅街（稲 5）は、市立病院前の布が池（農業用ため池だった）近くに在った、関西美術短大（現宝塚造形芸大）の跡地を中心に拓けた新しい住宅街で、各戸は戸は植樹の指導を市から受けて、みどりの確保に工夫をしている。

住宅街の北側、千里川に面した斜面は、桜が多くあった所で、造成に当たって布が池北公園となった。

神津橋下流で鍋田川と合流した千里川に沿って歩く。箕面グリーンロードトンネルの湧水





放流で、水が綺麗になり、鴨や鷺など野鳥が遊ぶ姿が観察できる。

左手に萱野の田園地帯が展開され、川の右手は桜の並木が続く。箕面の隠れた桜の名所です。右の墓地のに萱野三平と母（小まん）の墓が在ります。市立病院やコーナなど千里川の左岸（川下に向かって左）は、石垣が築かれガケになっていますが、断層地帯で昔は竹藪の斜面だったそうです。

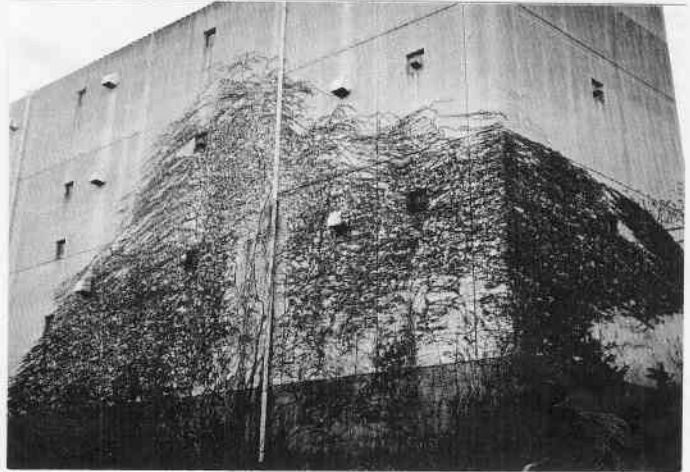
芝 1号線の橋で千里川と芋川が分岐しま

す。川の勾配は堰の多い千里川の方が急であることが判ります。

川沿いに進めないで、萱野交差点へ迂回します。住宅展示場跡にポツポツ新しい住宅が建ちつつあります。

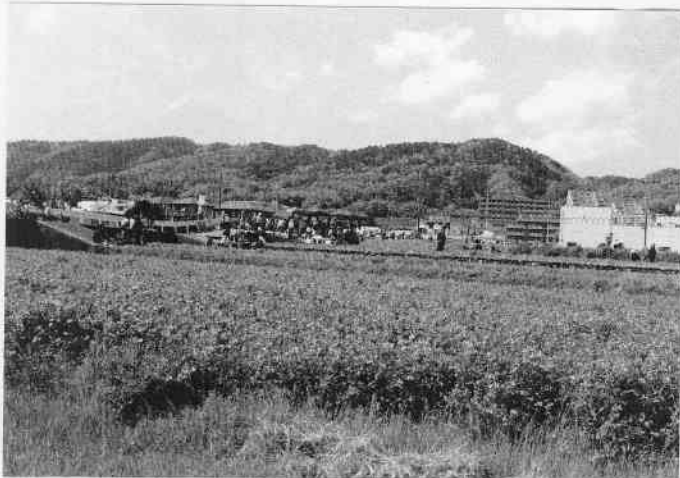
芝南橋から芋川に沿って進みます。トラックターミナルの一角に、壁一面に蔦が這っている倉庫が見えて来ます。

この辺りから西宿の田園地帯と北摂の山並みが、少しずつ形を変えて目に写ります。なを、西宿の地名は、茨木の椿の本陣（郡山宿）の西にあたるからだそうです。



旧西国街道に出て、今宮の集落から国道171号線を横断すると、芋川は石丸の田畑を潤す、農業用水路となる。萱野東小学校の西側の田圃では、毎年4月29日にれんげ祭りが開かれ、多くの市民がピンクの絨毯の上で花と戯れている。

さらに芋川を遡及すると、山麓線の打越池に到着する。池に遊ぶ水鳥や、噴水の先に階段状に連なる住宅街を眺めて解散した。



まちなみウォッチング 第48回

## 箕面川を遡及

2010. 5. 15





## 箕面川に沿って住宅街を散策

ウォッチングコース

歩行距離 約 4.0Km

石橋駅東口 → 豊中市飛び地 → 東瀬橋 → 有馬道 → 箕面川右岸 → 第一荘園橋 → 阿比太橋 → 紅葉橋 → 田村橋 → 桜ヶ丘 2丁目 → 桜低橋 → 途中田橋 → 西公園 → 西小路高橋 → 箕面 6丁目 → 巡礼道 → 箕面駅

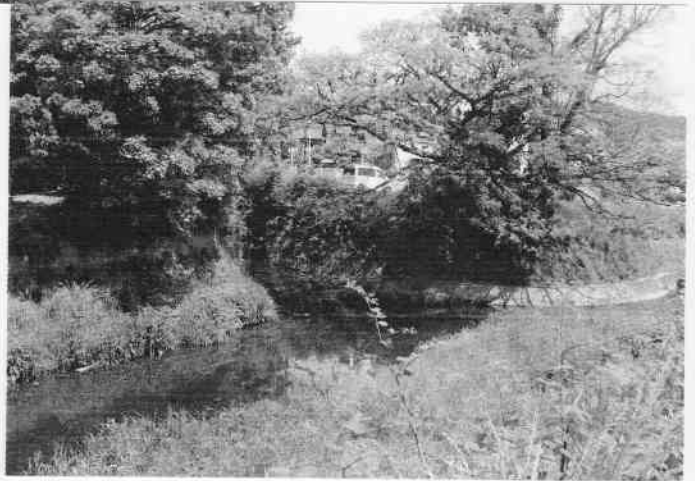


今井水路は、国道 176号東側の住宅街の中を流れる。この水路は箕面川から取水し、豊中市勝部まで流れる 800年の歴史をもつ農業用水路です。

道路が複雑な住宅街を抜けて、東瀬橋で箕面川を渡ります。人だけが通れる地域の住民に便利な橋です。やがて、太閤秀吉がねねと湯治に行った有馬道に出ます。今井橋の先で西国街道から分岐したものです。

今井橋の手前を左折し、箕面市に入り右岸の堤防を進みます。珍しいレモンが実る畑があります。第一荘園橋を渡ると、石澄川の合流点です。付近は初夏に蛍が飛び交う幻想的な風景が出現します。

箕面自動車教習所（瀬川本陣跡）の堤防では“みのお川を美しくする会”が花壇を作り、散策の人々を和ませていた。阿比太橋の川原に、箕面では珍しいバナナが葉を伸ばしている。気温が高くなると、花は咲きますが、黄



色のバナナは期待できません。

半町 1丁目では、蔦が塀を覆い生垣と異なる緑のカーテンを作っている家などが見られ、行き届いた街の風景が楽しめます。

欄干が石造りの紅葉橋からの眺めは、四季折々に表情を変えて、箕面でも屈指の美しい景観を生み出しています。

桜井 1丁目の一角に、花を沢山飾って通行する方々の目を楽しませている住宅の前を通る。市の花のコンクールで表彰されたお宅で、年中季節の花を育てておられる。

